

## 高齢女性用上衣設計を目的とした体表面展開図の解析

○渡邊敬子\* 松山容子\* 古松弥生\*\*

(\*大妻女大、\*\*十文字女短大)

**目的** 身体に適合する高齢女性用上衣の型紙設計を目指し、本研究では高齢女性の体幹部の3次元座標値データに基づく体表面展開図を作成し、その展開図と体幹部立体形状の関係、および若年の展開図との差異を明らかにすることを目的とした。

**方法** GRASP法で3次元計測した高齢女性48名分の右体幹部座標値データを用いて、ネックライン、および、肩先点、胸幅・背幅点、腕付根点、乳頭点、後胴高を通る包絡水平断面上の各21点から成るワイヤーフレームモデルを構成した。これを3角形法で平面展開し、前、後それぞれの正中を垂直に通し、各パッチを横方向に連ねて展開図を作成した。前、後展開図の各部寸法、パッチ間に生じる間隙量、角度などを求め、これらと体幹部立体形状との関連について検討し、さらに若年女子22名分の展開図と比較考察した。

**結果** 展開図上に表れた背丈と前中心丈の差は乳頭点水平断面よりも上部も形状により生じ、そして、頸部の傾きとも相関が高かった。パッチ間の間隙量は背面の丸みや前面の乳房の突出といったシルエットと関連していた。展開図の肩傾斜角度は肩のシルエットと相関が認められた。高齢女性の展開図の形状を若年女子のものと比較すると、乳頭点が低いことや前の乳頭点断面に生じる間隙量が少ないなどの差が認められた。これらの結果から、個体差に対応する型紙のコントロール要因として、シルエットが有用であることや年齢により型紙の形状に差があることが示唆された。